

目次	
社長メッセージ	1
事業紹介と概況	3
数字で見るラクト・ジャパン	3
ラクト・ジャパンの価値創造ストーリー	4
ラクト・ジャパンの成長戦略	5
コミュニケーションのひろば	6
株主メモ	6



A Message from the President

**社長メッセージ****転換期を迎えて挑戦を続けるラクト・ジャパン**

株主の皆さまにおかれましては、日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。また、新型コロナウイルス感染症により、さまざまな影響を被られた方々に心よりお見舞い申し上げます。

2023年に創業25年を迎える当社では、次代の成長を見据えた種まきを進めています。コロナ禍をきっかけに時代が大きく変わる中、常に挑戦を続ける創業以来の社風を引き継ぎ、新素材・新商品の取扱いにとどまらず、新しいビジネスモデルの構築、マインドの転換を図っていきます。また、今年4月に予定されている東京証券取引所の市場区分再編では、プライム市場へ移行しますが、それにふさわしい企業へと成長することを目指して、社員一同で邁進いたします。

株式会社ラクト・ジャパン  
代表取締役社長**三浦元久**



代表取締役社長  
みうらもとひさ  
三浦元久

## コロナ禍が足かせとなるも、 次代に向けた種まきが着実に進捗

緊急事態宣言の発出等に伴う外食需要の減退、インバウンド需要の喪失など、コロナ禍は食品関連業界に大きな打撃を与えました。特に乳業界では、需給バランスの崩れから、国産乳製品の在庫余剰の状態が続き、輸入原料の販売事業を主軸とする当社にとって逆風となったことは否めません。

一方で、当社の成長ドライバーであるアジアのチーズ製造販売事業では、製造規模を拡大したシンガポール、タイともにフル操業が続き、業績を下支えました。これらの結果、2021年11月期連結会計年度(以下、当期)における当社の業績は、売上高が1,108億83百万円(前期比0.0%増)、経常利益は26億81百万円(同3.6%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は19億59百万円(同5.0%減)となりました。

また、厳しい事業環境にあっても、当社は当期を種まきの時期と捉え、新たなビジネスを後押ししました。健康をキーワードに各業界にアプローチしている事業開発本部では、すでにその成果が表れています。一例をあげれば、コロナ禍による健康意識の高まりもあって、ホエイプロテイン原料の販売が好調です。特にスポーツニュートリション市場は拡大傾向にあり、来期以降の成長も大いに期待しています。



## 100年先にも誇れる ラクト・ジャパンであるために

2023年に創業25年の節目を迎える当社では、2021年12月からスタートした新中期経営計画「NEXT-LJ2024」を、次の25年に向かう重要なステップと位置付け、これまで業績に寄与してきた事業についても、ビジネスモデルのイノベーションを進める考えです。先述した余剰在庫に対して、当社では、国産脱脂粉乳の飼料メーカーへの販売に加えて、新たにアジアに有する販売網を活用した国産乳製品原料の輸出にも着手し、その解消に貢献しています。これは当社のあり方からすれば、非常に大きな転換点となります。

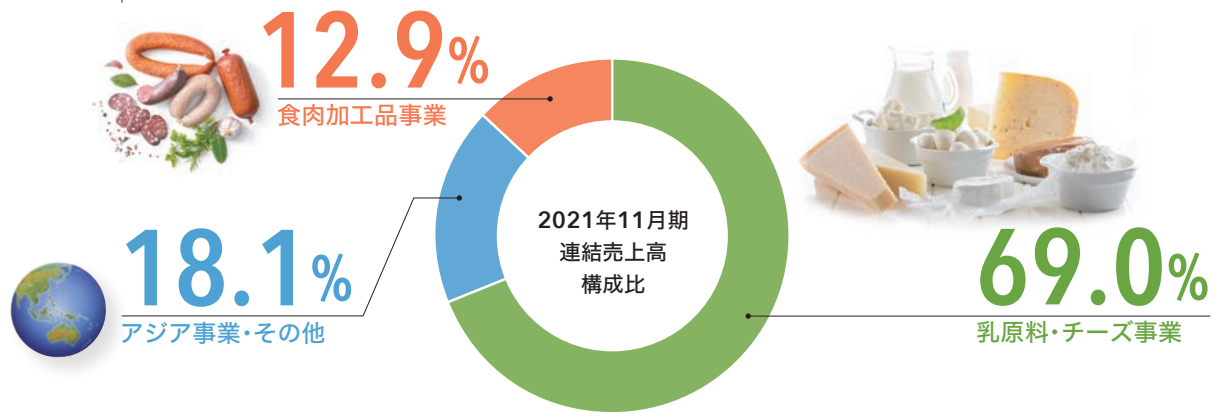
さらに今般、当社では「サステナブル経営」に向けて「価値創造ストーリー」を策定し、マテリアリティを特定しました。(▶P4ご参照) 将来を見通しづらい今だからこそ、当社の機能と存在意義を見直すことが重要と認識したためです。私たちはストーリーの策定を通じ、生活者に寄り添い、乳製品・食肉をはじめとする食材の安定供給を担保するというミッションが当社事業の原点であり、そのためには環境保全をはじめとする社会貢献を念頭に置かねばならないことを再確認しました。例えば、酪農・畜産業では、牛のげっぶや糞尿に含まれるメタン・窒素が、地球温暖化の原因となることが指摘されています。私たちは“食のプロフェッショナル集団”として、業界と連携してこれらの課題に真摯に向き合い、100年後の当社に関わる人たちに誇れるラクト・ジャパンとなることを決意いたしました。ステークホルダーの皆さまにおかれましては、引き続きのご支援をお願い申し上げます。



⇒詳細な決算情報につきましては、  
ホームページの「最新の決算のポイント」などをご参照ください。  
<https://www.lactojapan.com/ir/library/point.html>



## 事業紹介と概況



## 乳原料・チーズ事業

海外から安全な乳原料やチーズを仕入れ、日本国内の乳業・菓子などの食品、飲料、飼料メーカー等に販売しています。

販売数量	184,358 トン	前期比	3.8%減
売上高	764 億 81 百万円	前期比	2.4%減

## 食肉加工品事業

海外から豚肉および生ハム・サラミなどの加工品を仕入れ、国内の食品メーカー、卸売会社等へ販売しています。

販売数量	25,699 トン	前期比	17.2%増
売上高	142 億 78 百万円	前期比	20.0%増

## アジア事業・その他

グローバルで調達した乳製品原料をアジア地域で販売するとともに、自社ブランドのチーズの製造販売も行っています。「その他」には、機能性食品原料の販売を含んでいます。

売上高	201 億 23 百万円	前期比	2.4%減
-----	--------------	-----	-------

## 乳原料販売部門

販売数量	47,817 トン	前期比	20.5%減
売上高	157 億 54 百万円	前期比	7.5%減

## チーズ製造販売部門

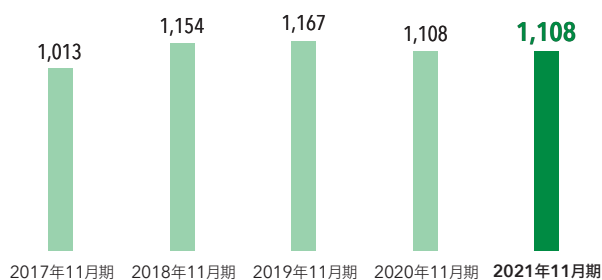
販売数量	4,635 トン	前期比	10.4%増
売上高	33 億 24 百万円	前期比	14.8%増

## LACTO JAPAN in Numbers

## 数字で見るラクト・ジャパン

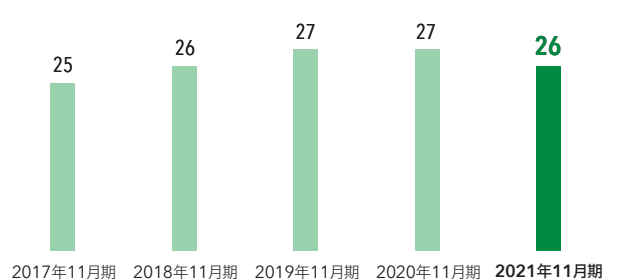
## 売上高

(単位: 億円)



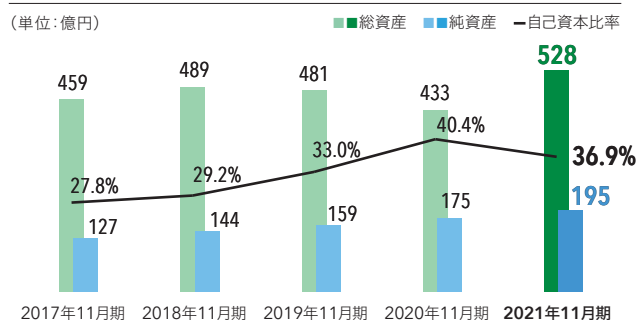
## 経常利益

(単位: 億円)



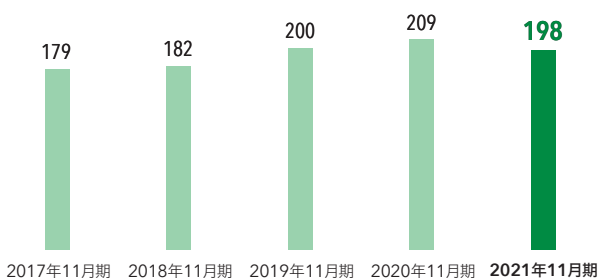
## 総資産・純資産・自己資本比率

(単位: 億円)



## 1株当たり当期純利益

(単位: 円)



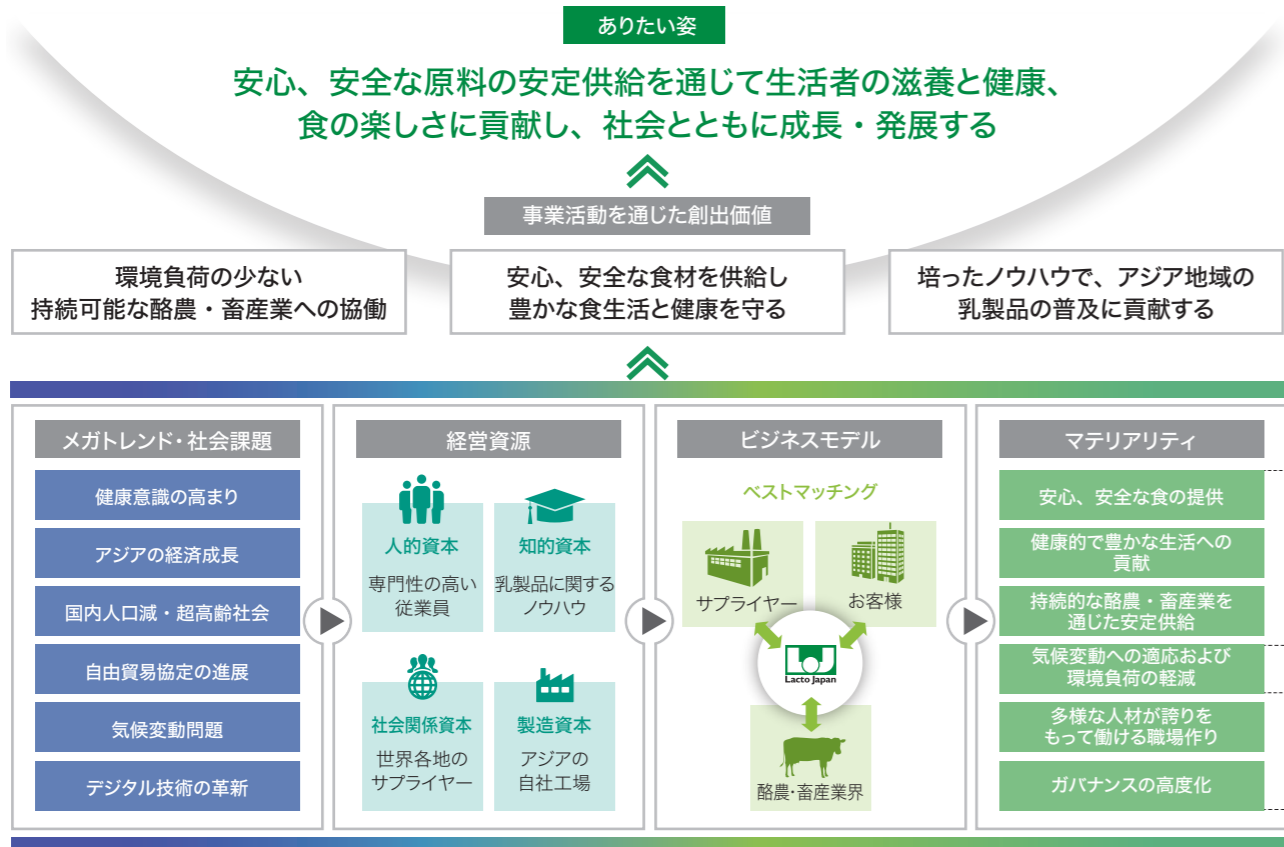
(注)「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号2018年2月16日)等を2019年11月期の期首から適用しており、2018年11月期の総資産についても遡及して修正しております。

(注)当社は、2019年5月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。1株当たり当期純利益については、当該株式分割の影響を遡及修正した数値を記載しております。

ラクト・ジャパンは2021年12月に、価値創造ストーリーを公表しました。

「価値創造ストーリー」は、当社グループが「ありたい姿」を実現するために、事業に投下する資本としての当社グループの強み、メガトレンドの変化と取り組むべき課題(マテリアリティ)や施策などについてまとめています。

今後も当社グループは、販売先、仕入先、生活者、乳業・酪農関係者、株主、従業員など、すべてのステークホルダーの皆さまと価値の共有を図るとともに、「価値創造ストーリー」に基づく経営・戦略を推進し、本業を通じた社会貢献と企業価値向上を目指していきます。



マテリアリティ	個別施策	関連するSDGs
安心、安全な食の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕入先の選定(監査、視察、サンプル検査)</li> <li>品質管理の徹底(トレーサビリティ、フードディフェンス、温度管理等)</li> <li>プロセスチーズ製造システムの強化(ハード・ソフト面からの見直し、従業員の教育)</li> </ul>	3, 12, 13, 16
健康的で豊かな生活への貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>滋養と健康に資する乳製品を世界中から調達</li> <li>プラントベースフード原料の充実(ヴィーガン、乳製品アレルギー等への対応)</li> <li>多様なライフスタイルにマッチした食品・原材料の提案</li> </ul>	2, 3, 9, 10, 11, 12, 13, 15
持続可能な酪農・畜産業を通じた安定供給	<ul style="list-style-type: none"> <li>サプライソースの多様化(品質、産地特性、価格等)</li> <li>ベストマッチング(顧客:最適な原材料の提案・調達 / 取引先:販売機会の提案・新たな需要の創造)</li> <li>酪農家育成(国際的な人材交流の支援、酪農業進出の検討等)</li> <li>デジタル化の推進による調達・供給の効率化、省力化</li> </ul>	2, 3, 4, 5, 6, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 17
気候変動への適応および環境負荷の軽減	<ul style="list-style-type: none"> <li>サプライソースの多様化(主に気候変動リスクの分散、環境に配慮した酪農家への優先・支援)</li> <li>温室効果ガスの削減への貢献(酪農・畜産業界との協業、サプライヤーへの情報・サービス提供)</li> <li>フードロスの削減(商品寿命長期化への取り組み、適切な賞味期限の設定、廃棄ロスの削減)</li> <li>廃棄物削減(包材見直し)</li> <li>物流の最適化(環境負荷を軽減する物流のベストマッチング)</li> <li>自社の事業所・工場での環境負荷軽減</li> </ul>	7, 11, 12, 13, 14, 15, 17
多様な人材が誇りをもって働ける職場作り	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダイバーシティの推進(女性活用、現地化・グローバル化、障がい者雇用等)</li> <li>働きやすい環境の整備(育児休暇等の制度、テレワーク等)</li> <li>人材育成の強化(教育・研修の充実化)</li> </ul>	3, 5, 8, 9, 10, 11, 13, 14, 17
ガバナンスの高度化	<ul style="list-style-type: none"> <li>コーポレートガバナンス(コーポレートガバナンス・コードへの積極的な対応)</li> <li>リスクマネジメント(BCP、情報セキュリティ、コンプライアンス)</li> <li>責任あるサプライチェーン管理</li> </ul>	3, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 17

## 新中期経営計画「NEXT-LJ2024」

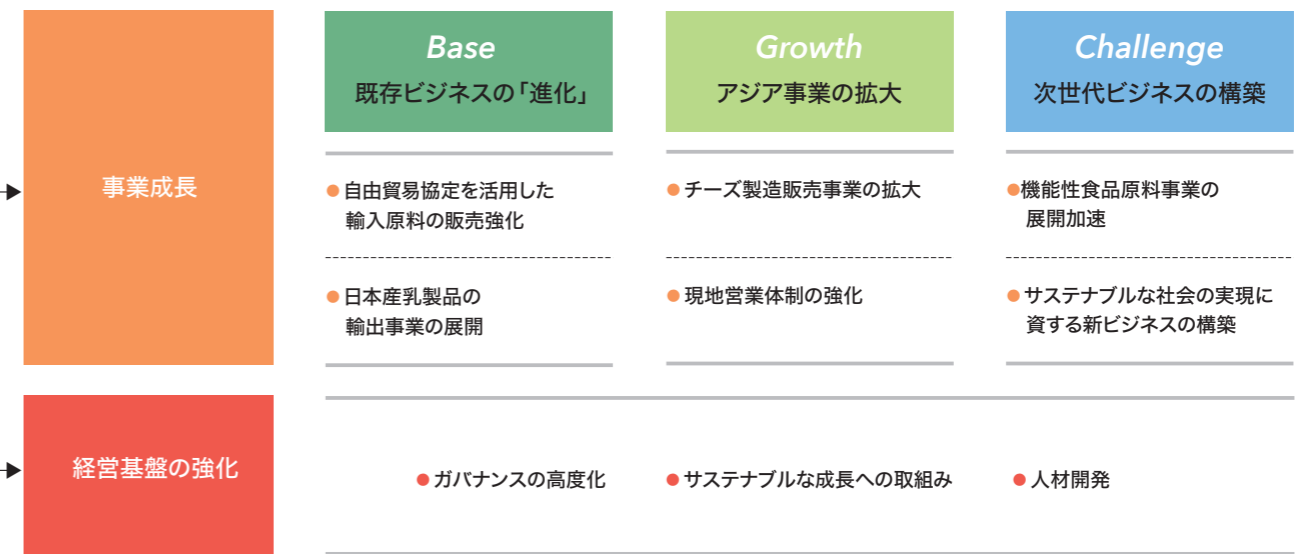
当社は、2022年11月期から始まる3か年の新中期経営計画として「NEXT-LJ2024」を策定しました。

コロナ禍という特殊な環境下においても当社グループでは、新規商品の開発、新規取引先の開拓、さらには日本産乳製品の輸出事業など、新たなビジネスも着実に進捗しています。

今回策定した「NEXT-LJ2024」においても、従来からの持続的な成長を目指す方向性には変わりはありません。価値創造ストーリーやマテリアリティと連動させながら、引き続き、グローバルに展開する商社事業とアジアにおいて製造事業を営む複合型「食品企業」を発展させていきます。

⇒ 中期経営計画の詳細については、以下をご参照ください。  
「中期経営計画のローリングに関するお知らせ」  
[https://data.swcms.net/file/lactojapan/ir/news/auto\\_20220107565242/pdfFile.pdf](https://data.swcms.net/file/lactojapan/ir/news/auto_20220107565242/pdfFile.pdf)

### 基本方針



### 実績と目標

	2021年11月期 実績	2022年11月期 予想	2024年11月期 目標	2021年11月期からの 増減率
売上高	1,108億円	1,260億円	1,500億円	+35.3% ↑
経常利益	26.8億円	29.0億円	39.0億円	+45.5% ↑
親会社株主に帰属する当期純利益	19.5億円	21.0億円	28.5億円	+45.5% ↑

### 想定している中期的な資金使途と財務目標

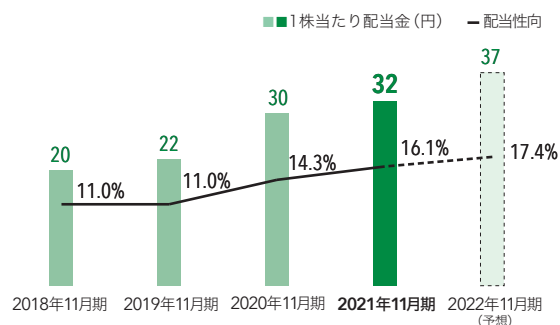
資金使途	成長戦略の柱となるアジア事業での資金需要	有望な販売市場における拠点の設置
	アジア事業・チーズ製造販売部門拡大のための資金需要	設備の増強
	新規事業立ち上げのための資金需要	
財務体質の強化	目標自己資本比率:40%	商社主体から商社+メーカー機能に備えた自己資本の充実

## 1 株主還元について

当社は、株主の皆さまへの利益還元を経営の重要課題と位置付けています。安定的かつ着実な配当を継続することを基本方針とし、配当性向の向上にも取り組んでいます。

一方、中長期的な成長の実現のために、アジア事業の拡大や、サプライソースのさらなる拡充などの戦略投資と財務体質および経営基盤の強化も同時に進めていきます。

### 1株当たり配当金・配当性向



(注)当社は、2019年5月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。1株当たり配当金については、当該株式分割の影響を適及修正した数値を記載しております。

## 2 プラントベースフード原料の取扱いを開始

健康や環境保護の観点から「プラントベースフード」が注目されています。日本の食品メーカーでも商品開発のニーズが高いことやサステナビリティ経営の観点から、当社も取扱いを開始しました。例えば、プラントベースのミルクの原料となるオーツやアーモンド、ハンバーガーのパテの原料となる植物性代替肉の輸入販売に着手しています。今後も市場動向を見極めながら取扱商品のバリエーションを増やしていきたいと考えています。



同封しておりますアンケートにご協力いただいた株主さまの中から抽選で、QUOカード1,000円分をプレゼントいたします。

また、今年度よりWEBからのアンケート回答が可能になりました。右記のURLあるいはQRコードをお読み取りいただきアンケートにご協力をお願いします。なお、WEBでご回答いただいた方は、お葉書の返送は不要です。

(当選者の発表は、QUOカードの発送をもって代えさせていただきます。)



<https://forms.office.com/r/9GD9v2gRLp>

アンケート締切 2022年3月15日

### Shareholders Information

#### 株主メモ

事業年度	12月1日から翌年11月30日まで
基準日	11月30日 そのほか必要がある場合は、あらかじめ公示いたします。
単元株式数	100株
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒100-8233 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)

■ 株券電子化に伴い、株主さまの住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三井住友信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。

■ 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三井住友信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記の特別口座の口座管理機関(三井住友信託銀行)にお問合せください。なお、三井住友信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。



〒103-0027 東京都中央区日本橋二丁目11番2号  
太陽生命日本橋ビル22F  
TEL:0570-055-369



より詳細なIR情報は、当社ホームページをご確認ください  
【株主・投資家情報】

<https://www.lactojapan.com/ir/Top.html>